

## 藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に藤樹思想を学ぶとともに、今日的意義を自分の頭で考え、仲間と議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月第一土曜日の午後、開催しています。本会報ではその模様をお伝えいたします。

五月六日（土）午後、第69回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

冒頭、童心塾と「まなざし」を紹介。「まなざし」で述べられている「空とは何ぞや」の解説をし、私は廣瀬童心先生を師と仰いでいるが、学ぶ者は師を持つことが大事であると述べました。

そして『孝経』を素読後、『孝経啓蒙』の中の「五刑の章」と「要道（正しい道）を広める章」を学びました。概意は、五つの刑罰の種類は三千にも上るが、不孝以上の罪はない。人々に親愛の情を教えるには、孝の思想を教える以上のものはない……。

フリートークキングでは、日本には儒教の思想が深く入り込んでいる。上を敬うことは大事だが、上の考えを盲信するのは良くない。自ら判断できる見識を高めることが重要だという議論をしました。



六月三日（土）午後、第70回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

冒頭、石田梅岩『都鄙問答』の中の「性理問答」の話を紹介しました。人の性は善か悪か。人の心は天とつながり、人の体は地とつながっている。心と身体をつないでいるのが呼吸（陰陽）。これを継ぐものが善。従って人の性は善であるという思想です。

『孝経』を素読後、『孝経啓蒙』の中の「広至徳（至徳を広める）章」を学びました。概意は、教養人が孝すなわち至徳を人々に教えるとき、内から湧き上がって外に溢れるようにして教える……。

フリートークキングでは、昔の人は聞いて覚えることが出来たが、現代

人は文字で覚えるので聞いて覚える力が弱くなったのではないか、などと話し合いました。

塾の後は、場所を替えて懇親会を楽しみました。

七月一日（土）午後、第71回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

冒頭、孟子の言葉「養いて愛せざるは、これを豚として交わるなり。愛して敬せざるは、これを獣（けもの）として養うなり」を紹介しました。二千三百年前の先哲の言葉は現代にも通用します。

『孝経』を素読後、『孝経啓蒙』の中の「応感（応じ感ぜしむる）章」を学びました。概意は、古代の明王は、父母にお仕えして孝を尽くし天地と気持ちを通じた。父は天と繋がりが母は地と繋がる……。

フリートークキングでは、現代社会の中にも親孝行や祖先の霊を大切にするとという考え方は残っている。しかし、多忙で複雑化する社会の中で「孝」の意識が薄れつつある。その結果、ストレスが充満する社会になっている。その解決のため古典に立ち返って、自分の生き方を見直す契機とすることが重要だ、などと話し合いました。

八月六日（日）午後、第72回人間学塾を安曇川公民館で行いました。

冒頭、七月に亡くなった中国の著作家、劉曉波氏は、ノーベル平和賞

を受賞しながら政府の反対で式に出られず、それでも彼は「私には敵はいない」という信条を持っていたのは覚者であった、その思想は藤樹や釈尊の教えにも通じるという話をしました。

『孝経』を素読後、『孝経啓蒙』の中の「広揚名（揚名を広むる）章」を学びました。概意は、教養人が至徳にしたがって孝の実践をすることにより名声が遠くまで、後世にまで伝播する……。

フリートークキングでは、外国人が奇異に感じる、日本人が修身等を大切にしている行動は儒教や仏教が浸透していることによる、それが日本の文化であるが若者には薄れている、などと話し合いました。

本塾には、新しく参加される方が徐々に増えています。「学ぶは楽しい」。皆さまのご参加をお待ちしています。

### 「藤樹人間学塾 今後の予定」

◎ 九月二日（土） 十月七日（土）

十一月四日（土）◎ 十二月二日（土）

一月六日（土） 二月三日（土）

◎ 三月三日（土）

◇ 時間 十五時～十七時

◇ 場所 安曇川公民館

◇ ◎印は塾終了後、別場所で懇親会あり